

第八回世界俳句協会日本総会レポート

会津太郎

二〇一三年四月二十九日午後一時半から、第八回世界俳句協会日本総会が、東京で開かれました。

最初に総会の内容についてですが、夏石番矢から日本語、英語、フランス語で挨拶が行われ、ベトナムからの新しい会員が入ってきたこと、また第7回世界俳句大会が本年九月南米コロンビアのメデジンで開催される旨の嬉しい報告がなされました。そのあと、堀田季何からモンテネグロのラトコビッチ国際詩祭について、また清水国治から俳画コンテストについて、さらに鎌倉佐弓から会計報告がなされ、総会は特に質問や意見もなく速やかに終わりました。

続いての第二回世界俳句セミナーについてですが、最初に鎌倉氏から佐怒賀正美の第六句集『天樹』（現代俳句協会、日本、2012年）について、実景と想像の間から読者をはっとさせ、唸らせ、納得させるような情感があるという論評がなされました。また前句集と比較すると、ユーモアが出てきて、イメージが豊かになったということです。たとえば、

要するにきみはドーナツ天高し

まだ春の夕日はこない涅槃境

二人目は粟野賢太郎氏が『現代自由律百人句集』（自由律俳句のひろば、日本、2012年）について、「自由律句のひろば」に所属する俳人の作品をまとめ、現代自由律を多くの人に知ってもらうために編まれた句集であるが、アンソロジーとしては作品がやや類想的ではないかと評しました。その中でも心に残る作品としては、

女に出す切手を舐める

ひまわり咲ききってこの国の淋しさ

風邪ひらり水面が月のうらをみせる

そねだゆ

平岡久美子

高田弄山

などが取り上げられましたが、確かに伝統俳句とは異なる詩情を感じます。

三人目は、会津太郎がインドの詩人クマールが書いた『Haiku of the present』（Rochak Publishing、インド、2011年）という句集について報告をしました。クマールの俳句はもちろん3行で書かれた英語の自由律であり、季語もなくキーワードを中心にした書き方ですが、自然よりも社会やキリスト教、禅、俳句などの広いテーマを扱った思索的な箴言詩です。印象に残った作品としては次のものがあります。

主の王国

岸から岸へと

春のミツバチが囁いている

俳句とは

この世からあの世への

巡礼の旅

思索的なところが、日本の伝統的な俳句とは違います。

四人目のレポーターは石倉秀樹氏が務め、夏石番矢氏の『ブラックカード』（砂子屋書房、日本、2012年）について語りました。石倉氏によると、父を亡くされたせいか、夏石氏の俳句が成熟してきたのではないかと、リズムは相変わらず三句による自由律の構成であり、難解そうに見えるが読者が自由に解釈してよいのではないかと、そして夏石番矢は俳句にできることは全部やる、というレポートでした。

生は死か死は生か水漏れの音

父の目は祖父の目その奥のさざ波

特に二句目は、個人の限られた時間を超え、永遠の時間に迫って行く傑作です。

五人目のレポーターは堀田季何氏が務め、デンマークの詩人、ヨハネス・S・H・ビエルグの『ペンギンズ／ピングヴィナー』（Cyberwit.net、インド、2011年）について報告されました。この句集のキーワードは複数の「ペンギンたち」であり、フィクションで書かれていますが、そのイメージは影なる存在であり、群衆であり、革命家であり、癒しの存在です。ビエルグの俳句作品には、グローバル化する人間社会に対する批評性とユーモアがあるとのことでした。たとえば、

on the backside
of the moon
lurking penguins

penguins
no human suffering
on the agenda

御覧のように英語の一行一行が短く、簡潔な俳句がヨハネス・ビエルグの特徴です。

堀田季何はもう一冊、米国のウィリアム・E・クーパー著『The Dance of Her Napkin』（Cyberwit.net、インド、2011年）についてコメントしました。

old lobster
no interest
in box or cable

hammock
the sway
of Orion

自由律で、米国の田舎の生活に取材し、省略を十分習得し、滑稽さがあるのが特徴とのことでした。

以上、日本、インド、デンマーク、米国の俳句集についていろいろな意見が出され、俳句の普遍性について議論がなされ、大変実り多いセミナーでした。

次はいよいよギター伴奏による俳句朗読の時間。ギターの演奏は、笹久保伸氏と清水悠氏が務めてくれました。その美しいクラシックギターの伴奏をバックに多くの俳人が積極的に演台に立ち、自作の俳句を、日本語、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、モンゴル語、中国語などで朗読し、多言語俳句朗読にふさわしい楽しい夕べになって大変盛り上がりました。当日東京には来れなかったフランス、ドイツ、オーストリア、内モンゴル、台湾、コロンビア、米国の会員の俳句をこの大会の参加者が朗読しました。

私の遺伝子健康なまま伝わって行きますように 会津太郎

この身全て罪深く黙祷 栗野賢太郎

月時計 花の唄は永遠 笹久保伸

El chamón,
su negra ala,
su blanca estela Diente de León

Tu prends ta retraite
le médecin en riant
t'annonce une diabète Georges Friedenkraft

また桜のひとり

そねだ ゆ

南瓜の優等生は君か君かな

梅澤鳳舞

Les nuages gris
griffés par les arbres nus
Je chasse une pensée.

Danièle Duteil

大鵬が屁をこき起てり春の風

石倉秀樹

冷風鑽門縫
一陣更一陣
往事倒轉來

呉 昭新

海よりも水平線は雲が好き

鎌倉佐弓

In a dream my father
Speaks to me of perfect pitch-
And he could sing

Eric Seland

Morgenmond —
mein Briefkasten randvoll
mit Pflaumenblütenduft

Ramona Linke

Der Herbst
kommt mit Sturm
und Äpfeln

Kurt F. Svatek

恋の戦いに／敗れた英雄／墓なし

E・オリゲル

新芽出づ誓いし胸の奥の奥

大里満紀

戦災で焼け残りし樹地球抱く

佐藤和泉

ピンひとつ机上に光り寒波来る

橋本遊行

犬に格上げされ／黒い雨粒を／舐める

堀田季何

could be anything first drop of rain

Jim Kacian

夢千夜天と地との種なる名前

夏石番矢

Un corbeau et moi
allons dans la même direction
à travers les airs

Jean Antonini

La mia ombra
entra nel buio
per ritrovarmi

Toni Piccini

八月の白球何処へ瞳澄む

高遠 守

書籍の内側棲んでみる

野谷真治

